

預り御代官并御目見以下之御支配向江御達可有之候、依之御達申候、以上、
五月
坂部十郎右衛門

〔代官例要四御關所〕一御關所御目見以下ノ者通行心得之事

諸國御關所御目見以下之もの通行ノ節、致下乘罷通候様、兵部少輔殿被仰渡候、諸家中ノ義も御目見不仕家來者、下乘仕候様被仰渡候、尤右家來之内、御目見茂仕候者ハ、是迄之通、駕籠ニ而罷通候様被仰渡候、依之申達候、以上、

寛政三亥年朱書七月

坂部十郎右衛門

別紙御書取略中之趣意、不殘御組御支配向江御達有之候筋ニハ無之、御文言之内、御達可然義計、御組御支配江御達可有之事、

御關所通行之儀ニ付、兵部少輔殿江猶又御趣意相伺候處、御目見仕候家來者、一同駕籠ニ而罷通候様相達候譯ニ者無之、只今迄御目見仕候陪身ノ内ニ者、駕籠ニ而通來ことも有之候間、右之分者、是迄之通りニ而相替儀無之事ニ候旨被仰聞候、依之尙又爲御心得申達候、以上、
寛政三亥年朱書七月

坂部十郎右衛門

〔青標紙〕諸御關所通行の例

寛政四子年、井伊兵部少輔殿被仰達候、

一諸國御關所、御目見以下者、通行之節、致下乘罷通可申旨、但御目見以上ハ、諸御關所駕籠ニ乘通り候事、如先規可被相心得候事、

〔青標紙〕諸御關所通行の例

福島御關所之事

鐵炮數筒者、御老中御證文ニ而通候事、